

平成27年度 学校関係者評価報告書

大阪市立昭和中学校 学校協議会

1 総括についての評価

- 総括については妥当である。
- ・学力については心配していない。よくやつていただいている。
 - ・道徳心をこれからしっかりと伸ばして欲しい。不登校についても家庭と連携を取りながら、しっかりとやって欲しい。

2 年度目標ごとの評価

年度目標：【視点：学力の向上】

- 平成27年度の全国学力・学習状況調査における「学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間勉強をしますか」の項目について、「2時間以上」と答える生徒の割合を50%以上、かつ「1時間以上」と答える生徒の割合を80%以上にする。
(カリキュラム改革関連・学校サポート改革関連)
- 平成27年度「指導方法の工夫改善定数を活用した小学校における専科指導の充実」に係る児童アンケート(5月・12月実施)の各項目において、「あてはまる（どちらかといえばあてはまる）」と答える生徒の割合を、5月実施分より12月実施分において向上させる。
- 平成27年度末の校内アンケートにおける「授業で自分の考えをまとめたり、発表したりすることがある。」の項目において、「ある（どちらかといえば、ある）」と答える生徒の割合を80%以上にする。(カリキュラム改革関連)
- 平成27年度末の校内アンケートにおける「学校は子どもに基礎的な学力が身につくように努めている。」の項目において、「努めている（どちらかといえば、努めている）」と答える保護者の割合を80%以上にする。(カリキュラム改革関連)

評価Bは概ね妥当である。

- ・自己評価を低く見ているのではないか。十分できていると思う。
- ・基準の設定も高めではないだろうか。
- ・Bでなくて、Aでもいいと思う。

年度目標：【視点：道徳心・社会性の育成】

- 平成27年度の全国学力・学習状況調査における「将来の夢や目標を持ってますか」の項目について「持っている（どちらかといえば持っている）」と答える生徒の割合を全国平均以上にする。(カリキュラム改革関連)
- 平成27年度末の校内アンケートにおける「命や人権の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」の項目において「ある（どちらかといえば、ある）」と答える生徒の割合を、85%以上にする。(カリキュラム改革関連)
- 平成27年度末の校内アンケートにおける「先生はいじめや校内暴力など私たちが困っていることについて対応してくれる」の項目において「対応してくれる（どちらかといえば対応してくれる）」と答える生徒の割合を80%以上にする。(カリキュラム改革関連)
- 平成27年度末の校内アンケートにおける「地震や台風などの場合の対応については、生徒や保護者に行動マニュアルが知らされている」の項目において、「知らされている（どちらかといえば、知らされている）」と答える保護者の割合を、85%以上にする。(カリキュラム改革関連)

- 平成 27 年度末の校内アンケートにおける「保護者や地域の人々といっしょになって学習や作業をすることがある」の項目において「ある（どちらかといえば、ある）」と答える生徒の割合を、50%以上にする。（カリキュラム改革関連・ガバナンス改革関連）
- 平成 27 年度末の校内アンケートにおける「私は部活動に積極的に取り組んでいる」の項目について、「取り組んでいる（どちらかといえば取り組んでいる）」と答える生徒の割合を、80%以上にする。（カリキュラム改革関連）

評価Bは概ね妥当である。

- ・中学生時代は漠然とした夢は持っていても、具体的なものまでは考えられないものだろう。
- ・命や人権の大切さ、社会のルールについての項目が目標よりもわずかに下回っていることが残念である。
- ・いじめの対応についても目標を下回っていることが気になる。
- ・地震・台風の対応については、地域として防災に熱心であり、地域ぐるみの取組をしている成果である。

年度目標：【視点：健康・体力の保持増進】

- 平成 27 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、体力合計点が本市平均ならびに全国平均を上回るようにする。（カリキュラム改革関連）
- 平成 27 年度末の校内アンケートにおいて栄養バランスのとれた昼食（家庭弁当や学校給食）を取る生徒の割合を 90%以上にする。（カリキュラム改革関連）
- 平成 27 年度末の自己評価において、「保健・健康に関して家庭や地域の保健関係機関との連携を図っている」の項目について「図っている（どちらかといえば図っている）」と答える教職員の割合を、100%にする。（ガバナンス改革関連）

評価Bは概ね妥当である。

- ・残食率が減少していることは評価できる。
- ・男子の体力合計点の低さ、運動が苦手である子や体を動かすことが嫌いな子が多いことについては、体力だけの問題ではなく、自分で向上する意識に繋がっていないことも問題である。しかし何かのきっかけがあれば好きになることもあるだろう。

年度目標：【視点 教職員の I C T 活用能力の向上】

- 平成 27 年度末の「文部科学省 教育の情報化の実態等に関する調査」における「授業中に I C T を活用して指導する能力」の項目において、「できる（わりにできる・ややできる）」と答える教員の割合を 100%にする。（マネジメント改革関連）
- 平成 27 年度末の「文部科学省 教育の情報化の実態等に関する調査」における「生徒に I C T 活用を指導する能力」の項目において、「できる（わりにできる・ややできる）」と答える教員の割合を 100%にする。（マネジメント改革関連）
- 平成 27 年度末の「文部科学省 教育の情報化の実態等に関する調査」における「校務に I C T を活用する能力」の項目において、「できる（わりにできる・ややできる）」と答える教職員の割合を 100%にする。（マネジメント改革関連）

評価Bは概ね妥当である。

- ・ホームページで授業の様子がアップされているのを見て、生徒がタブレット P C を使いこなしている様子がよくわかる。
- ・英検前の学習会でも、使用方法の説明をするまでもなく、タブレット P C を使いこなしていることがよくわかった。

3 今後の学校運営についての意見

- ・道徳心を伸ばす、不登校対策に対してがんばってもらいたい。
- ・総じて、良い学校と思えるので、自信を持って自己評価してほしい。
- ・目標が高すぎると伸びしろがなくなるのではないか。「3年間目標を超える続ける」というような目標設定でもいいと思う。

A:目標を上回って達成した B:目標どおりに達成した C:取り組んだが目標を達成できなかった D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

自校の取組の成果と課題

区分	成果と課題
①暴力行為の状況等	なし
②いじめの状況等	同じ学年の男子から「くさい」とされ違いざまに言われることが度々あったとの訴えが女子生徒からあった。学校では監視体制を強めて見守っていた。しかし、被害生徒は言われている気がすると訴えた。保護者と相談し、当該生徒はスクールカウンセラーのカウンセリングを4か月程受けた。その結果、本人からもう大丈夫との声が出たところで解決とした。その後は問題なく登校できている。
③小・中学校における不登校の状況等	3年生で1名、この1年間全く登校できない生徒がいる（女子）その生徒以外の6名（1年生1名、2年生1名、3年生4名）は継続して登校することはできないものの、断続的に登校でき、前向きな話もできる。外部の関係諸機関とも連携している。
④高等学校における長期欠席の状況等	
⑤高等学校における中途退学の状況等	